

来てみよというより外の言葉なし

たぐいまれなるこの景色は

(二条基弘公爵の言葉昭和 44 年 7 月)

(有) げいび観光センター相談役 鈴木 眞

狛鼻溪は旧藩時代には秘められた秘境でありました。先人佐藤洞潭（謙治・
狛巖の父）は従来遊覧船の準備もなかった時代、村民を徴発して背に負わせ
て、また、俄作り（にわかづくり）の板輿（いたごし）に乗せて案内したと伝
えられています。

時代の変遷によって、その存在と価値を世に広めようと考え、交流のある文
人墨客を招いたり、訪れた客人の世話をし、その紹介宣伝に力を尽くしまし
た。また、佐藤家は代々長坂村本郷の里正（りせい）であったため、1880 年
（明治 13 年）から長坂村本郷郵便取扱所取締役に任命されていましたが、
1900 年（明治 33 年）に逝去されました。

佐藤狛巖（衡）は、父の指導により幼い時から漢学を学び、十四歳の時に地
元の小学校の助教を始めとし、隣村、県下、秋田県下の教員、校長そして秋田
県庁学務課に勤めておりましたが、向学の志あり、法律を学ぶべく、大隈重信
に直談判し、1880 年（明治 33 年）早稲田大学に入学しました。（狛巖は盛岡
師範の第 1 回の卒業生でもあります。）

しかし、間もなく父洞潭の死去により長坂村に帰り、父の跡を継いで長坂村
郵便局長に就任し、1909（明治 42）年に長坂村村長となり（在任期間 5 年 3
カ月）、日露戦争後の農村振興に力を傾け、1915 年（大正 4 年）には郡会議員
となり（郡制廃止で 8 年間）、郡の自治に貢献しました。



佐藤 猯巖

父洞潭が『この仙境を世に広めたい。』との想いとは裏腹に、物質文明がもたらす風潮もこの仙境を襲わずにはおられませんでした。10年前にこの溪口に発電所企画の出願があり、あわや十中七、八まで実現する状況でした。猯巖は猯鼻溪保存のため反抗の筆を取りました。時を同じくして平泉地方の亜炭坑企業の事もありました。このような状況により、『猯鼻溪をどう世に広めるか。』から『どう保存するか。』に猯巖の意識が変わっていきました。

少しこの時期に繋がる時代背景について説明しますと、1868年（慶応4年。改元し明治元年）、日本社会の大転換期でした。同時に日本文化にとって、第一の危機とも後に言われています。明治維新（御一新）によって、国策が祭政一致となり、神祇官が台頭し、僧籍の還俗、神仏の分離が行われ、仏教関係のものが廃仏毀釈され、神道の偶像が巷に溢れ出しました。

これにより文化財の破壊、散逸（海外流出も）を防ぎ、保存する為の施策として、1871年（明治4年）5月『古器旧物保存方』の太政官布告に始まり、1911年（明治44年）『史跡及天然記念物保存ニ関スル建議案』が貴族院議会で提出され、1919年（大正8年）『史跡名勝天然記念物保存法』公布に至りました。

同年『史跡名勝天然記念物（愛護）保存』の講演会が県内で唯一長坂村一箇所だけ開催されました。聴衆の範囲は郡内小学校職員、町村長、神職、僧侶、公職者、有志等でありました。

1922年（大正11年）猯鼻溪について史跡名勝天然記念物調査報告書第一号、1923年（大正12年）同報告書第二号が作成され、そして同年天然記念物保存法・法規作成をされた三好学博士が名勝指定調査のため猯鼻溪を来溪。三好ヶ丘に吉野桜植樹を指導（これを記念して三好ヶ丘と命名）。これらにより、晴れて猯鼻溪は1925年（大正14年）10月8日、内務大臣若槻禮次郎により『史跡名勝天然記念物保存法第一条ニ寄り名勝指定ス』となりました。

長坂商店街の一角に、猯巖が父の苦心が年月とともに忘れられることがないようにと建てた『闡幽詩碑』（せんゆうしひ）があります。『父洞潭は猯鼻溪を開く為に地位や名誉を夢見ることもしないで五十余年に亘って努力した。自分はその後を継ぎ猯鼻溪を世に知らせることに苦勞して反省を頑張った。これからのヒトはこうしたことを分かってくれるだろうか。』と記載されています。

猯鼻溪関連年表

文久2年8月(1862年)	猯鼻溪紹介の功績者佐藤猯巖(衡)翁誕生
明治23年4月(1890年)	東北本線一ノ関駅開業 文明開化の息吹が陸奥の地に届く
明治43年8月(1910年)	芦東山135回「郷祭」猯鼻溪にて開催 「猯鼻溪」正式命名
明治44年7月(1911年)	二条基弘公爵ご探勝のため来溪
大正3年頃(1914年)	鈴木旅館、菅原旅館本格的に舟業始め
大正10年7月(1921年)	史跡名勝天然記念物保存法規作成の植物学者三好学博士来溪
大正14年7月(1925年)	大船渡線一ノ関駅～摺沢駅間開業 別称「鍋づる線」
大正14年10月(1925年)	国の史跡名勝天然記念物保存法により「名勝」に指定
大正15年2月(1926年)	鈴木朗月(量平)追分講習会開催 追分ブーム起きる
昭和2年6月(1927年)	東京日日、大阪毎日新聞社主催の新日本八景選定 百景入選
昭和16年7月(1941年)	猯鼻溪紹介の功績者佐藤猯巖逝去 村葬で行われた
昭和45年4月(1970年)	有限会社げいび観光センター設立
昭和48年8月(1973年)	国鉄周遊指定地となる (全国的な観光地として認められる)
昭和58年11月(1983年)	雪見船操業開始
昭和59年1月(1983年)	第1回溪内の砂取り除き工事実施
昭和61年1月(1986年)	JR東日本猯鼻溪駅開業
平成元年4月(1989年)	「運玉投げ」営業開始
平成4年9月(1992年)	第1回十六夜コンサート開催
平成6年8月(1994年)	きんさんぎんさん百二歳「誕生会」猯鼻溪にて開催
平成13年1月(2001年)	台湾よりの団体客が来溪 初めての外国人団体
平成13年9月(2001年)	舟下り初の女性船頭さん誕生
平成10年7月(1989年)	第3回全国舟下りサミット猯鼻溪にて開催
平成16年10月(2004年)	猯鼻溪初めてのロケ開始 映画「忍 SHINOBI」
平成27年10月(2015年)	「猯鼻八景」正式選定

猯鼻溪関連年表



1935年頃の舟下り



1925年名勝指定頃の船着き場の様子



1925年 名勝指定と同年に鈴木朗月により『げいび追分が誕生』
手踊り付きで披露された。



陸中松川駅の様子 狛鼻溪へ送迎の車
1925年7月 大船渡線開通 狛鼻溪観光発展に大きく寄与



1927年 東京日日大阪毎日新聞社主催新日本八景 百景入選
日本百景 投票事務所前



1949年 高松宮妃殿下ご来溪 歓迎の様子



昭和初期かぢや旅館の様子